

く会社にて」

「ばかもん！そんなこと客に言えるかっ！少しはわたしの立場も考えろ！なんのために貴様に任せていると思うとるんだっ！！」

いきなり黒崎部長が怒鳴る。相手はイケさんである。どうやら大河内のチームが間に合わない状態に陥っているらしい。これをお客様へ報告したいと相談しにやってきたのだ。

「は、はぁ・・・」(イケさんが申し訳なさそうに汗を拭く)

人前など気にしない。部長の小言はこれ見よがしに怒鳴るので、まわりにとっても聞き心地のいいものではない。

「またあんな大きな声で・・・」

三沢が少し困惑した表情でポツリとつぶやく。まわりも同じような顔をしている。

「(あんなにしてまで威厳をみせつけたいのだろうか・・・？まったく、困った人だ。)」

また、近くの打ち合わせ卓では、大河内が大声で檄を飛ばしていた。

「みんなで力を合わせればなんとかなるぞお！よくし、土日は返上だっ！おれも出るからなっ。一丸となつてこの困難を乗り越えようじゃないかっ！」

みんな本当に嫌そうな顔をしている。

「(あーあ、またあの体育会系ノリか。そりゃあ嫌な顔するよな。彼らもかわいそうに。)」少し同情した顔でちらりと見たが、こちらも他人事ではない状況だ。※ペアプロをしている状況で、なおかつみなが少しあせているような表情にしてください(ペアプロは隣同士座っているという、二人でひとつのPCへ向かって作業しているイメージです)

「うーん、源に言わせるまでもなく、本当にまづくなってきた。『空城計』をやっている場合ではないな。」

(ナレーション) 三沢は自分たちがなにもしてないように見せる『空城計』を断念した。そもそもそこまでせずとも各所が火の車であり、大俵といえども他チームを気にしている余裕がない状況だったのだ。(ナレーションここまで)

「よし、まずはあらためて情報収集だ。基本にかえつて本を正そう。『臨機応変の策』というのが孫子の売りだったというもんなっ。」

三沢は早速MTGを開始することにした。※ミーティングのことです↓MTG

く会議室にて※レイアウト1をお願いします

騒がしいまわりを遮断するため、三沢は会議室でMTGをおこなった。

「忙しいところすまない。XPでやるといいながら、おれの力不足で8時間労働を守れずに申し訳なく思う。みんな、疲れはないか？」

まずは劳いの言葉をかけてやる。彼らはいつも遅くまで残ってくれているのだ。

「係長、そんな心配はしないでください。わたしたちは大丈夫ですよ。」

ひとりがそんな答えをした。

「そおだよおう、エリカはまだまだ頑張れるぞっ☆」

（「ヒクッ」っと引きつりながら）

「あ、ありがとう。（おまえはいつもペアに甘えつきりだろうがっ）」

三沢は呆れながらも笑顔で返した。※目はやさしく笑っているが、口元は引きつっている感じで

「係長。」

このやる気の抜けた声の主は浦成だ。

（「ん？」という感じで浦成のほうを向く）

「こんなことやつて大丈夫なんですかぁ？全体的に遅れてるそうじゃないですか。」

まあ、僕にとつてはどうでもいいんですけど。」

「（ー）」（「なにっ？！」という顔をする）

三沢は、一瞬「キッ」とにらんで見せたが、すぐに落ち着きを取り戻した。

（軽く「ふうっ」と息を入れて）※眉間をつまみ、目はつぶって上向きかげんで

「あのな、浦成。一蓮托生などと古いことは言わないが、さすがにどうでもいいはないだろ？モチベーションを上げられないおれのほうに問題があるのはわかるけど。な？」

（浦成は「う、うん。」といったように下向きかげんになる）

→※わかりますでしょうか？あごを引いて上目遣い気味でかつ引き気味にたらっと汗をかいているみたいな感じですよ（言葉での表現が難しいです・・・）

少しイヤミは入っているが、実際、XPで可能な『モチベーション・アップ』ができていないのだ。やはり、付け焼刃でおこなったものはうまくいきにくい。

（くるりと向き直り）

「さあ、仕切り直しだ！みんな、どうかおれに力を貸してくれっ！」

会議卓（長机）に両手を突き、頭を下げる三沢。そのパフォーマンスにみなが驚いた。もちろん、浦成も驚いた。

「も、もちろんじゃないですかぁ。やだなあ、係長。そんな大袈裟なあ。」（浦成）

「そおだよおう。」（源）

「頑張りましたよう！（やりましようっ。」という声等が複数）」（その他スタッフ）

（ナレーション）三沢はうまく士気を上げることに成功した。段々と成長しているのがうかがえる。これも書籍とはいえ、先達に学ぶという姿勢からくるものであろう。上が姿勢を正せば、おのずと下もついてくるものなのだ。（ナレーションここまで）

「みんなありがとう！よし、それじゃあ早速、これからのやり方からは始めるぞっ！・・・と、その前に、あらためて進捗状況から頼めるかな？」

（外注のしっかりしたスタッフに向かって軽くウインクをする）※メガネの女性っていました？いれば、イメージ的にそういう感じの人へ（もちろん、男性でもOKです）

（「あ、わたしですか？」といった感じでそれに気づく）

「それでは現状報告をいたします。今朝のスタンドアップミーティングでもありました

ように、全体の進捗状況としては1週間ほどの遅れのようにです。現在、プログラムの完了本数は画面系を合わせて74本、着手状態のものが・・・。」

(ナレーション) こうしてチームの雰囲気はあらためられ、いっぺんに引き締まった。これからが上に立つ者の腕のみせどころだ。いっぽう、鮫島のほうはというと・・・。(ナレーションここまで)

「なにやってんだ？おまえたちは！全然進捗しないじゃないかよ！おまえたちのせいで、おれは毎日々々部長や課長から怒られているんだぞっ！」

鮫島が怒鳴る。まるで誰かさんのようだ。

「でも係長、前々からスケジュール的に厳しいといってたのに、まったく聞いてくれなかったじゃないですか！」(城之内)

「まったくくだわっ。だいたい、こうコロコロと仕様を変えられてたら、できるものもできなくなるじゃない！なんとかしてよね、まったく。」(小高) ※「ふんっ」と少し怒った感じで

(ナレーション)・・・やはりまくいてないようだ・・・。(ナレーションここまで) ※ナレーションも呆れているような「汗をかく」表現にしたいのですが・・・(通じますでしょうか？)

「参考ウェブサイト」

[XP体験記「豆蔵」](#)

<http://www.mamezou.com/tec/process001.htm>